

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立大詫間小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会やまちづくり協議会など地域組織との連携を強化し、地域連携による開かれた学校教育活動を推進した。</li> <li>「縦割り」活動の充実など異学年間の関係が深まり、学校全体としての集団作りを進めた。他校との交流活動・交流学習等により、教育活動が活性化した。</li> <li>教育相談体制の整備・充実が図られ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応ができた。</li> <li>家庭学習習慣の定着が十分でない。内容や量などの検討やテレビ・ゲーム等の視聴を含めた生活習慣について家庭との連携の推進が必要。</li> <li>学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、意欲的に表現する力の育成や主体的に学びに向かう態度の涵養などに全校で共通実践し、小規模校の弱みを強さにかえるよう取組の推進が重要。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	未来を切り拓き、主体的に行動する児童の育成
----------	-----------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の定着と生活習慣の見直しで、基礎的学力の向上を図る。</li> <li>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。</li> </ol>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教職員は、88%。	B	・マイプランの成果指標について、「達成できた」または「だいたい達成できた」と全教職員が回答した。	B	・学校は、新しい学習方法などについて、積極的に取り組んでいる。ICTの活用等、積極的に進めており今後も取組を進めてほしい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○探求的な学習の中で、児童の主体的・対話的で深い学びを実現する指導の充実	○「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童90%以上	○「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。 ・課題の明確化、振り返りの場の設定。 ・感想・意見の交流で、考えの構築を可視化する授業。	C	・10月に実施したアンケートで、話し合いを通して考えを深めたと答えた児童は、72%。 ・児童の発言や意見の交流を通して、考え方を深めさせるため、児童の「言葉」を活かし、可視化などの手だてを講じながら、構造的な話し合いを行う。	B	・1月に実施したアンケート調査で児童生徒88%及び全保護者が肯定的に回答した。 ・話し合う活動の設定率は上がったが、学年や段階に応じ、より構造的な話し合い活動により、児童生徒の有用感につなげることが必要である。	B	・小規模の学校のため、特に、中学校に進学した後に自分の考えを表現できる力の育成が重要である。 ・8割以上の児童が積極的に発言していると回答している。今後も、こうした力を伸ばす学習を大事にしてほしい。	・研究主任 ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート項目「学校生活が楽しい・友達や地域の人に優しくできる」において、達成率を児童・保護者ともに90%以上とする。	・人権集会で命や思いやりについて考えさせ、児童の自尊感情を高める。 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・「ふれあい道徳」を年1回確実に実施する。 ・異学年交流の充実。地域や他校との交流体験・交流学習を実施する。	B	・10月に実施したアンケートで、90%以上の児童が、「学校生活が楽しい」と回答。 ・保護者の方が参画した「ふれあい道徳」を、9月実施した。 ・道徳科の授業づくりや評価に関する職員研修を、10月に実施した。研修した内容を今後の取組に活かす。	A	・道徳に関するアンケートにおいて92%の児童生徒及び全保護者が肯定的な回答であった。 ・6月と12月に、児童の主体的な活動を伴った人権集会を実施した。9月の授業参観でふれあい道徳を実施した。 ・道徳科の授業づくりに関する研修会を10月に実施し、教員間の共通理解を図った。	A	・大詫間地区は、優しく思いやりのある児童が多い。上学年の児童が下学年の児童の世話をするという風土が育っている。 ・地域生活の場面でも、互いに優しく声をかけ、必要に応じて下学年の児童に注意を促すなどの姿を見ることができている。今後も、思いやりの心情や態度を大切に育てたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・各担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・毎月、月初め「いじめ・いのちを考える日」の取組として「心のカード」を書く。 ・各学期に「教育相談週間」を設定し、きめ細かな児童観察と支援を実施する。 ・「いじめアンケート」を年2回実施。全職員で情報共有を図る。 ・いじめの対応についての研修・会議を年2回以上行う。	A	・いじめ防止等について組織的対応について、全職員が「できている」「ほぼできている」と回答した。 ・いじめの対応についての職員研修を、1回目のいじめアンケート後(7月)に、スクールカウンセラーも同席し実施した。11月実施する2回目のいじめアンケート後、12月に、2回目の職員研修を実施する。	A	・学校のいじめ防止等について保護者の92%が肯定的に回答。さらに全教職員が、いじめの組織的対応が「できている」「ほぼできている」と回答した。 ・7月及び、11月と12月にいじめの対応についての校内研修や、法の規定に基づきいじめの認知について職員研修会を実施し、いじめの早期対応について、全職員へ周知できた。	A	・大詫間の児童は仲が良く、いじめがあるとは思えない。ただし、学校が普通の生活の中の些細な出来事を見逃さず、丁寧に児童相互の関係を見守っていることで安心感が高まる。 ・家庭や地域も、さらに協力し合い児童の成長を見守っていくことが大切だと思う。
●健康・体づくり	◎児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童(6学年)85%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・各種体験活動では、活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「将来の夢や目標をもっている」について、肯定的に回答した児童は80%。 ・各種体験活動では、やり遂げたことを認め、学びを振り返らせる活動を今後も重視する。	B	・「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒91% ・振り返りでの肯定的な感想を残し、新たな活動への意欲を示す児童生徒が増加した。	A	・将来への夢や目標をもち、努力をしている児童の姿をうれしく思う。大詫間の児童は、自分の将来に対し、夢をもつことができるということであり、前向きにAと評価したい。	・キャリア教育担当 ・教務主任 ・各担任
	●「望ましい生活習慣の形成」	●「健康に十分な睡眠は大切であると考え、決められた時刻に就寝できている」と回答した児童80%以上	●「早寝・早起き・朝ご飯」等のアンケート調査を使用し、児童の生活習慣形成に関して、保護者の意識啓発と家庭の教育力向上を図る。 ・各学期実施する「家庭学習がばらばら週間」に合わせて、「生活習慣」の見直しについて保護者の意識化を図る。	B	・「早寝・早起き」について、アンケート調査では、84%の児童が達成できたと回答。 ・「家庭学習がばらばら週間」では、取組についての個人差が大きいことや、テレビ及びゲームの視聴時間の長さが問題である。保護者の意識啓発と家庭との連携について、今後も取組を継続する。	B	・「早寝・早起き」について、アンケート調査では、78%の児童が達成できたと回答。テレビ及びゲームの視聴時間の長さはなお課題が残る。 ・「家庭学習がばらばら週間」では、前回の反省を基に各学級で取組の周知と家庭への理解・協力を求めた。児童の家庭学習の取組意欲に改善が見られたが、今後も継続的な取組が重要である。	B	・スマホ等の携帯率の上昇や視聴時間の伸び、またゲーム依存などの問題は、度々地域の中でも話題となっている。学校の指導を待つだけでなく、家庭間で情報を共有しながら、小学生として、守るべきルール作り、各家庭で積極的に取り組まなければならないと思う。	・教務主任 ・生徒指導主任 ・保健担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○「安全に関する資質・能力の育成」	○「安全に関する様々な課題に関心をもち、自他の安全な生活を実現しようと考え行動している」と回答した児童を、80%以上とする。	・教科等横断的なカリキュラムマネジメントに基づく計画的実施 ・事前指導・事前学習と事後指導・事後学習の取組を図る。 ・防災の授業：年5回、避難訓練(ショートを含む)：年3回実施する。	B	・「安全に気をつけて生活できている」と回答した児童は90%、「安全についての課題に関心をもち、自他の安全な生活を実現しようと考え行動している」と回答した児童は60%である。 ・「安全教育の年間計画をもとに、児童の防災意識の向上に向け指導を行っている」と全教職員が回答した。	A	・「安全に気をつけて生活できている」と回答した児童は92%、「安全についての課題に関心をもち、自他の安全な生活を実現しようと考え行動している」と回答した児童は、ともに94%である。 ・最終調査でも、「安全教育の年間計画をもとに、児童の防災意識の向上に向け指導を行っている」と全教職員が回答した。	A	・コロナだけでなく、令和2年は多くの災害が身近に発生した年であった。安全についての課題に90%以上の児童が関心をもちていることは、頼もしい。地域での安全対策や防災訓練についても、協力して取り組んでいきたい。	・安全教育担当 ・各担任
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定、退勤PC横に、平常日の退勤目標時刻を予告・表示する。 ・学校閉庁日の設定。 ・会議資料のデジタル化等、ICT利活用による校務の精選・効率化を推進する。	B	・4月～10月間の時間外勤務の平均が、昨年度同時期と比べ、約3時間少なくなった。 ・定時退勤日の徹底の他、課業日も目標時刻までに全職員退勤できた。 ・時間外勤務削減について、まだ課題があると回答した職員が約半数いた。個々の業務改善の取組が今後も必要である。	B	・4月から2月の全職員の月間の時間外勤務の平均は25.8時間であった。 ・定時退勤日が徹底できた。また、目標退勤時刻を意識した働き方も定着している。 ・見直しを持って業務に取り組む、時間外勤務の削減に努め、月40時間以上の時間外勤務をする職員が見られなかった。	B	・先生方が、健康で生き生きと仕事をしていただくため、学校における働き方改革の推進をしてほしい。地域として、子どもたちの下校時の見守り隊員への参加など、引き続き協力していきたい。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域・家庭と共に歩む学校づくり	○市民性を育む教育の推進 ○地域や保護者との連携	○「地域行事や学習に積極的に参加できた」「自分は地域の一人である」と回答した児童85%以上	・学校行事、総合的な学習の時間や生活科等と関連させ、地域の「人・もの・こと」等の地域の教育力を生かした学習を仕組む。 ・体験活動を通して、地域の人と触れ合う機会を設定し、自己肯定感を高め、郷土を愛する心を育む。	C	・「地域の学習に進んで参加できた」と回答した児童は80%。 ・総合的な学習に時間や生活科の学習を活用し、体験活動等も仕組みながら、地域の人と触れ合ったり、地域について学んだりする場を設定する。	B	・「地域の学習に進んで参加できた」と回答した児童は92%。 ・感染症拡大で、縮小や変更を行った活動があったが、総合的な学習の時間や生活科の学習の中で、地域の人と触れ合う機会を設定し、地域や郷土を愛する心を育んだ。	A	・新型コロナウイルス感染症予防のため、地域の行事が制限されたことは、仕方がないことである。 ・「地域学習に進んで参加した」児童は92%であった。さらに、まちづくり協議会で実施したアンケートにも、全員の児童が進んで参加していた。公民館に日常的に足を運ぶ児童も増加し、地域で学ぶ姿を感じるようになった。	・総合的な学習の時間担当 ・生活科担当
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施。 ・ケース会議を開催し、情報共有を重ねる。	B	・毎月「子ども支援全体会議」を活用し、特別支援についての情報共有や、研修の場をもった。	A	・児童の個別の支援や指導の充実に関して、全教職員が肯定的に回答した。 ・「子ども支援全体会議」での情報共有を活用し、配慮や支援が必要な児童への支援体制の充実を図った。	A	・学校の先生方が協力して、児童の指導や支援に取り組んでいることは、保護者にとっても大変安心できることだと思う。	・特別支援教育コーディネーター ・特別支援教育担当
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と連携した家庭学習の定着や、教職員の指導の工夫・授業改善による基礎学力の定着を図り、確かな学力向上の取り組みを推進する。</li> <li>学校教育目標に掲げる「主体的な児童の育成」のため、意欲的に表現する力の育成や主体的に学びに向かう態度の涵養などに全校で共通実践し、小規模校の弱みを強さにかえるよう取り組む。</li> <li>職員の時間外勤務が削減でき、業務改善の取組について一定の成果が得られた。ペーパーレスによる会議運営も定着してきた。今後も、職員の働き方への意識の変化に繋がるよう定時退勤日の設定や退勤の呼びかけなど丁寧に行っていく。</li> </ul>									